

困った時はお気軽に
ご相談ください

☎090-9330-9004 定例法律・生活相談
毎月第2水曜日18時より

あなたの思い、
しっかり受けとめ
区政に届けます。

新宿区議会議員



川村のりあき

日本共産党

私の活動をご報告します。



川村のりあき プロフィール

1971年岩手県花巻市生まれ。新聞奨学生として上京、働きながら早稲田大学第2文学部卒業。99年区議選は29票差の次点で惜敗。03年から区議3期。党区議団政調会長。家族は、妻、3女1男。ぽっぽのいえほいくえん相談役。新宿消防団員。

■川村のりあきの活動地域 中井1～2丁目、上落合3丁目、中落合3～4丁目、西落合1～4丁目

みなさんのくらしの声を新宿区政に

川村のりあきのお約束

安倍暴走政治
ストップに全力

- 誰もが使いやすい西武線中井駅の整備で、にぎわいの拠点に
- 認可保育園の増設で、待機児童ゼロに
- 学童保育・放課後子ども広場の充実で、子ども達に安心安全の放課後を
- 特別支援教育の充実。学校図書館司書を常駐化
- 国保料の負担軽減。がん検診は無料に
- 特別養護老人ホームの増設と介護サービスの充実で、安心の介護を
- 清風園の存続を
- 耐震工事助成、耐震対策拡充で、首都直下型地震に万全の備えを

日本共産党が8人⇒9人になれば、新宿はもっと住みやすくなります

新宿区議会の定数38のうち、日本共産党の議席は8(議席占有率21%)。衆議院でいえば100議席に匹敵します。だから、自民・公明が与党のもとでも、区民の願いを区政に届けられて実現させられるのです。いま都議会でも、参議院でも、衆議院でも、自民党の

政治とキッパリ対決する日本共産党の議席が倍増し、ブラック企業の規制、認可保育園・特養ホームの増設へ、政治の流れが変わろうとしています。

ぜひ日本共産党を8から9に伸ばして下さい。お力添えをお願い致します。

明るい新宿

2015年1月号外

発行●明るい新宿社 新宿区北新宿1-30-26 篠崎修之 日本共産党・川村のりあき区議の活動を紹介します。

初めて立候補してから16年、区議会に送りだしていただいた3期12年。私は、「人生のあらゆる場面で手助けできる存在になりたい」「頼まれたことは断らない。全力で取り組む」ことを信条に、区議会議員の活動をしてきました。

岩手の山村で生まれ育った私は、緑あふれる落合が大好きです。誰もが安心して住み続けられる落合、新宿区をつくるために、全力をつくします。ひきつづき区政で働かせてください。



断らない

一生懸命聞く

全力をつくす

川村のりあきの生活相談

「人生のあらゆる場面で

支えになりたい」

様々な相談をお受けしています。

川村区議のもとには、様々な相談が寄せられます。「病気で失業。家賃が払えず、『明日退去しろ』と言われた」「家族が失踪してしまった」「会社をどうしたむか」「生活保護をうけるしかない」「会社都合で退職。国保料を払えず、差し押さえられた」……。川村区議は、解決のためにどうしたらいいか、「一緒に考え行動すること」を大切にしています。

「この人だ!」と思って相談してよかった

川村さんのことは朝出勤のとき、毎週駅で宣伝しているのを見ていました。理容店を営んでいた私は、人を使ってそれなりに繁盛していましたが、このご時世でお店の家賃を払うのにも事欠く状態になりました。何とか営業努力をしていましたが、さらに自宅のローンまで滞るようになりました。その時、川村さんを思い出しました。「この人なら力になってくれるに違いない」と、勇気を出して相談しました。弁護士さんを紹介してもらい、自宅を残し事業も継続できるようになりました。やはり信頼して間違いありませんでした。とても感謝しています。

落合在住 Nさん

夫は、ねばり強く相手の話を聞ける人

病院を追い出された人の受け入れ先を求めて、一軒一軒ダイヤルしている姿を見ます。その粘り強さには、困っている人をどうしても助けようという気持ちが伝わってきます。

夫は誰に対しても相手の立場になって、よく話を聞きます。私や子どもたちの話も、よく聞いてくれます。早朝のしんぶん赤旗配達をして駅頭宣伝へ。帰って一息つく間もなく、「接する時間を大事にしたい」と子どもたちを幼稚園に送ったり、サッカーにつきあっています。優しいからこそ、悪政に対する怒りも強いのだと思います。区民のくらしと命を守るため、これからも頑張ってもらいたいと思います。

川村克子

電車にとびこみ、自ら命を絶った青年

「この地域で悲劇をくり返さない」

川村さんは、99年に初めて区議に挑戦しましたが、29票差で届きませんでした。その頃、落合で、青年が踏み切りに飛び込み、自らの命を絶つ事件がありました。胸がつぶれるような思いでした。「人生にはいろいろな場面がある。苦しい時もある。その時に手助けできる存在になりたい」。この時の決意が、区議会議員としての活動の原点になっています。



99年、中井駅前ですえる川村さん

「困っている人が目の前にいると思う区議会の質問をしよう」



区政を動かす
川村のりあき

区議会では区長などに質問することを通じて、区民の願いの実現をはかることが、議員に与えられた大事な役割です。川村区議が心がけているのは、事実を調査し「困っている人を思い浮かべて質問をつくる」こと。迫真の質問は、新宿区政をつき動かします。

認可保育園
学童クラブ

「働きながら子育てしたい」
認可保育園の増設へ流れ変える
落合第四小学校内学童クラブが実現！

区議会文教
子ども家庭委員
として奮闘

川村区議は現在、区議会の文教子ども家庭委員。福祉健康委員だった時期もふくめ、毎回の区議会でも待機児問題を取りあげ、認証保育園中心だった区政の流れを変えました。区は認可保育園を14年春に4園増設、15年春にさらに4園増設します。

落合第四小学校地域では、学童クラブの待機児童が常態化。保護者のみなさんの定員増を求める取り組みを励まし、落合第四小学校内学童クラブが実現しました。



落合第四小学校

原発
放射能

「あの日、子どもを外で遊ばせてしまった…」と後悔するお母さん

放射線測定・除染実現

「放射能が東京に降り注いだの知らず、子どもを外で遊ばせてしまった。ものすごい罪悪感がある…」。3・11原発事故が起き、あるお母さんが泣きながら言いました。

矢ヶ崎克馬さん(琉球大
名誉教授)を招いたシン
ポジウム。160人が参加

川村区議は「親たちにこういう思いを、もうさせてはならない。原子力ムラとたたかわなければ」と、脱原発のため原発都民投票条例制定の運動に取り組みと同時に、被ばくから子どもたちを守る取り組みを開始しました。放射能が体内に取りこまれる内部被ばくの問題を取り上げ、8月には、共産党区議団の中心となって内部被ばくについてシンポジウムを開催しました。

区議会でも要求し、除染や放射線測定と測定器の貸し出し、学校給食の測定、区民が持ち込んだ食品測定などを実現しました。



発達
障害

「通級学級が

遠すぎて通えない」

区立小学校の通級学級が5カ所に

川村区議は、特別支援教育を一貫して取り上げてきました。とくに発達障害については、保護者のみなさんの悩みを聞き、区議会できり返し要望してきました。通級学級は区内に1カ所でしたが、05年に天神小学校、11年に落合第一小学校に設置され、今年から空白地域だった2カ所(鶴巻小・四谷第六小)に設置されます。今後始まる特別支援教室についても、保護者の方の心配な点を議会に取り上げ、改善してきました。

また、「もともと早く障害に気づいてあげられれば、つらい思いをさせなくてもよかったのに」と保護者の方から伺い、私立認可保育園や認証保育所、私立幼稚園もふくめ、早期に対応できる専門家の派遣を提案し、実現のため努力しています。

発達障害のことを議会でも取り上げてくれて、川村さんに感謝しています。少しずつですが、環境がよくなってきていると思います。その他のことも相談もさせていただいています。私もがんばりますが、これからもお願いします。落合在住・Yさん

共産党区議団
政調会長として
条例提案12本、
毎年予算要望



川村区議は、共産党区議団の政調会長。毎年取り組む区政アンケートには、要望がギッシリ書き込まれた返信が1200~2000通寄せられます。川村区議はそれをまとめ、予算要望書を作成し、区長に提出してきました。前区長も「参考にさせていただいている」と述べるなど、これが願いの実現の力になっています。

共産党区議団の条例提案(4年間で12本)や予算修正案(毎年)も、川村区議を中心に作成しています。条例提案が力となり、今期は空き家対策条例、65歳以上の肺炎予防接種費用の助成が実現しました。

染色産業、若い起業家支援

「染色・印刷・製本など、地場産業の継承支援を」。川村区議が10年第3回定例会で具体的提案を行い、12年から後継者育成支援事業が始まりました。技術研修に補助が出ます。同質問で提案した若い起業家の支援に高田馬場「創業支援センター」が開設されました。



下落合に建設中の特養ホーム

下落合に特養ホーム実現

「公有地を区民のために」。区議になって最初の質問です。百人町のけやき園につづき、下落合に特別養護老人ホームが実現しました。

あゆみの家の看護師増員

ショートステイなどの機能をもつ障害者施設「あゆみの家」が民間に委託される時、看護師が不足することが問題に。保護者の相談にのり、議会で取り上げ、増員が実現しました。

西武新宿線「中井駅」南北自由通路、バリアフリー

朝、いつまでたっても通れない西武線の踏切。遮断機をくぐってわたる人もいて、とても危険です。住民のみなさんとともに運動し、川村区議が区議会で何度も取り上げました。駐輪場に続き、エレベーター・エスカレーター各4基設置と自由通路ができます。



05年、西武鉄道本社に要請

川村のりあき物語

岩手県の山村に生まれる



早池峰山の麓で生まれました

川村区議は、岩手県の山村（宮沢賢治で知られる花巻市）で、ぶどうと米をつくる兼業農家に生まれました。中学校の時はサッカー部、高校の時は空手部と柔道部に所属。毎日、応援団の練習に励み、団長として甲子園でも活躍しました。

難病のため、21歳で亡くなった妹

川村区議の妹は、難病を患い療護施設に入所。家族が妹を支えるために一つになっていました。妹は21才で他界しましたが、「弱い立場の人の力になりたい」との思いは特別のものがありません。

働いて学費をつくり、早稲田大学を卒業

実家が貧しく、自力での進学を決意し、早稲田大学第二文学部に入学。新聞奨学生として、3畳一間の住み込み生活からスタートしました。その後、昼は大学の職員として働き、夜は授業という生活を送りました。

卒業後、日本共産党新宿地区委員会の職員に。「しんぶん赤旗」を配達・集金する仕事、区議団事務局長、大山とも子都議事務所長をつとめました。

29票差で落選「区民の声を直接届けられない」くやしさをバネに

99年、区議選に立候補しましたが、29票差で次点。「あと4年がんばろう」と自分のことのように励ましてくれた地域のみなさんの温かさは、今でも忘れることができません。生活相談活動、西落合図書館廃止反対など地域要望の実現に取り組み、03年に初当選しました。

4児の父。子どもたちの名前は憲法前文から

川村区議は、3女1男の父親です。子どもたちは、「和(なごみ)」「平(ひらり)」「希(のぞみ)」「求(きゅう)」と、憲法前文にも謳われる思い入れのある名前です。地域の子育ての取り組みにも、積極的に参加しています。

日本共産党の一員として

「国民の苦難軽減」と「反戦平和」を貫く

川村区議の活動の根本にあるのは、「国民の苦難をとりぞく」という創立以来92年間貫かれた日本共産党の立党の精神です。西落合の水害(05年)救援、阪神(95年)・東日本(11年)大震災でも被災地での支援にとりくみました。

もう一つは、「子どもたちに平和な日本を」という願い。「国会で改憲を決議されても国民投票では必ず押しとどめる。地域から『戦争ではなく平和を』の圧倒的な声を広げたい」と決意しています。



05年の水害の際、国交省に対策を求める川村区議